

令和5年度 自己評価表(最終評価)

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>これからの社会に向け、たくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びの推進 規範意識と多様性の受容力の向上 地域貢献力の育成
---------------------------	---	-----------------	--

年度当初				評価結果(2月)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な学びの推進	学びに向かう意欲・意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートで学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が92.5%。一方で、学習内容の満足度について肯定的な回答をした生徒は67.1%にとどまっており、学習への意欲はあるものの、学習内容の理解については課題が多い。(1年次生はChromebookで評価アンケートを実施。) 進路指導に対する満足度68.3%。生徒への進路指導を早期に行うため、2年次から面接週間で担任教員に加えてキャリア形成部の教員も面談を実施している。 「人との出会いをとおして成長を感じている」とした生徒は前年度同率。(R3:78.7% → R4:78.6%) 	<p>【学校評価アンケート】(12月実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びに向かう意欲 <ul style="list-style-type: none"> 学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が95%以上 学習の満足度70%以上 授業等の指導カードを受ける生徒の減少 学びに向かう意義 <ul style="list-style-type: none"> 進路指導に対する満足度75%以上 意欲・意義の醸成 <ul style="list-style-type: none"> 人との出会いを通して成長を感じている80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「学びのルール」について定期的に確認して自学の意欲を喚起する。 1学期末に生徒による授業評価を実施・分析し、生徒の学びの質向上に向けた授業改善を行う。 進路ガイダンスや担任面談等にキャリアカウンセリングを実施して、進路意識を高める場面を増やす。 各系列の授業、「産業社会と人間」及び「総合探究(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」において外部人材を積極的に活用する。 	<p>【学校評価アンケート】(12月実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びに向かう意欲→教育企画部のアンケート(7月実施)の分析結果を職員全体で共有し、生徒の理解が高まるよう授業改善を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 学習への取り組み姿勢に肯定的な回答した生徒が91%、学習の満足度は75.1%と6ポイント上昇。一方で理解度という点で課題が見られる。 12月末現在、授業関係で指導改善カードを受けた生徒は3名。(昨年度は8名) 学びに向かう意義→担任面談に加えキャリア形成部も面談を行い、個々の進路希望を把握し、早期に指導を始めた。また、キャリア教育LHR等をとおして、生徒の進路意識を啓発し、スタディサプリ受講者に定期的に課題を配信して個々の課題に応じた学力の伸長を促した。 <ul style="list-style-type: none"> 進路指導に関する満足度は73%で9ポイント上昇。また、進路相談に親身になって応じてくれたとの回答が78.6%と10ポイント上昇。 意欲・意義の醸成→人との出会いをとおして成長を感じていると回答した生徒は82.4%と4ポイント上昇。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業の理解度アップに向け基礎・基本を徹底する。 「総合探究(日野探究Ⅱ)」では、外部とのやり取りでも成長するが、グループ内での役割を明確にすることを重視する。 学習活動の基本的な姿勢となる「学びのルール」について年度当初に周知・徹底し、教室が質の高い学びを実現できる環境になるように生徒に促す。 引き続き、指導改善カードの運用と並行しながら、特にその場での注意指導を徹底する。
	授業のICT化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 7月の協同学習授業研修会に併わせ、授業公開週間を実施。授業へのICT活用法について教員間で相互研修を行った。さらに、11月にも授業公開週間を実施した。 8月にICT活用の先進校から教員を招聘し、Chromebookの活用について教員校内研修を実施した。ICTを活用している教員は80%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 協同学習 <ul style="list-style-type: none"> 教員間での授業参観と事後の授業検討会を年2回以上実施。 ICTを活用した協同的な学びの実践 【ICT活用・指導力調査】 ICT活用 <ul style="list-style-type: none"> 日常的にICTを活用した授業を行っている教員が90%以上。 探究学習のICT活用を促進 	<ul style="list-style-type: none"> 協同学習の実践を前提として、授業におけるICT活用に関する職員研修を継続的に行う。 日常的なICT機器活用のため、必要な機器を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 協同学習→授業公開週間7月、12月に実施。7月には県外推進校から、ICT活用に関して先進的な取り組みを行っている講師を招聘し研修を実施した。併せて県外推進校の授業研究会に2名の教員が参加し、本校研修で還元した。 ICT活用→持ち運び用パソコンを1台購入し2台とした。また、各教科や「産業社会と人間」及びキャリアパスポートでは、Chromebookを積極的に活用した。 <ul style="list-style-type: none"> 日常的にICTを活用している教員は70%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修をとおして得られたICT活用に関する知識を生かした授業改善を行い、生徒の個別最適な学び、協同的な学びを実現する。 様々な場面で、ICTを活用した活動を増やす。
2 規範意識と多様性の受容力の向上	人と関わる力の増大	<ul style="list-style-type: none"> 「人の役に立っていると思う」とした生徒は微減。(R3:46.1% → R4:45.2%) 自己理解・他者理解講演会(1年・7月)、性教育講演会(2年・12月)、性に関する指導LHR(全校・12月)、ストレスマネジメント授業(全校)を実施し、「相手の気持ちを大切にすることができている」とした生徒が増加。(R3:77.5% → R4:79.8%) 朝食を全く摂らない生徒が7.7%。食育講演会(1年・9月)、食育映画鑑賞学習会(3年・12月)、希望者対象の簡単朝食講習会(家庭クラブ)を実施し、食への興味・関心を高める取組をした。 生徒指導事案はやや増加。 	<p>【学校評価アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と関わる力 <ul style="list-style-type: none"> 自尊感情や自己有用感50%以上 他者理解において成長85%以上 人との出会いを通して成長80%以上 【食事に関するアンケート】 規範意識(生活習慣) <ul style="list-style-type: none"> 朝食を全くとらない生徒が5%未満 規範意識(多様性の受容力) <ul style="list-style-type: none"> 暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が0件 	<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情や自己有用感を高めることを目的とした講演会や様々な地域交流活動等を実施するとともに、個別の支援に努める。 地域貢献活動を通して、成功体験を積み、自己肯定感を高める。 保健だより、講演会、講習会、保健室での個別指導などとおして、食に関する啓発活動を継続する。 見逃さない生徒指導を行う。 	<p>【学校評価アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人と関わる力→探究学習や各系列の取り組みの中で、生徒が活き活きと活動し、年間をとおして成長した。また、探究学習やキャリア教育LHRにおいて、社会人講師や地域サポーターなどを招聘した。 <ul style="list-style-type: none"> 「自尊感情や自己有用感」10ポイント上昇。(R4:45.2% → R5:55.3%) 「他者理解において成長」3ポイント上昇。(R4:79.8% → R5:82.4%) 「人との出会いをとおして成長」4ポイント上昇。(R4:78.6% → R5:82.4%) 規範意識(生活習慣)→自己理解・他者理解講演会(1年・7月)、性教育講演会(2年・12月)、性に関する指導LHR(全校・12月)、ストレスマネジメント授業(全校)を実施し、多くの生徒が自己の成長につながったと実感していた。 <ul style="list-style-type: none"> 食育講演会、食育映画鑑賞学習会を実施したが、朝食を全く摂らない生徒が14.1%で7%上昇。 規範意識(多様性の受容力)→暴力・暴言・器物破損等の指導件数は1件。(R4は5件) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、振り返りや面談をとおして、自らの言葉で状況や思いを整理させる時間を設けるようにする。 多様化する生徒に対し、日頃の見守り、情報共有、個別の支援が重要である。 引き続き、自尊感情や自己有用感を高めることを目的とした講演会などを実施するとともに、個別の支援に努める。 保健だより、掲示、保健室での個別指導、保健委員からの呼びかけなどとおして、健康管理及び食に関する啓発活動を継続する。 引き続き、アンテナを高くして生徒の状況の把握に努め、保護者と連携し迅速に対応する。
3 地域貢献力の育成	地域に貢献する意欲の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 「地域と連携した学びが充実している」とした生徒は微減。(R3:77.5% → R4:76.2%) 「学びの成果発表会」では、地域を学びのフィールドとした取り組みが学年進行するごとに充実していると高評価を得た。 生徒会執行部を中心に、「はるかのみまわりの活動」や学校祭の企画運営、学校改善に積極的に取り組んでいる。 環境教育LHR(全校・4月)、ゴミ減量チャレンジ(各学期末)、ゴミ出さないDAY(6月)、ペットボトルキャップリサイクル活動(8月)などを通して環境意識を高める取組を行った。 	<p>【学校評価アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域と連携した学びが充実」80%以上 生徒が主体的かつ積極的に部活動、生徒会活動、学校行事、地域貢献活動等に取り組めるようになる。 地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができることを考えるようになる。 環境意識を高揚させ、前年の電気用量、可燃ゴミの総量を超えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」によって、問題解決能力を育成する。 生徒会執行部を中心に生徒自身が主体的かつ積極的に地域貢献活動を行う。 環境教育LHR、ゴミ出さないDay等のゴミ減量チャレンジ、地域の清掃活動など環境意識を高める活動を継続するとともに、TEAS通信や環境委員からの呼びかけで節電の啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」をR6.1月に受賞した。 【学校評価アンケート】 「地域と連携した学びが充実」5ポイント上昇。(R4:76.2% → R5:81.2%) 生徒会執行部を中心に、学校祭、清掃、クラスの取組みで、生徒全員が大きく成長し、互いが協力して取り組むことができた。 地域をフィールドにして様々な活動に取組み、地域の課題を主体的に解決しようとする意欲を高めた。 環境教育LHR(全校・4月)、ゴミ減量チャレンジ(各学期末)、ゴミ出さないDAY(6月・11月)、TEAS通信などで意識を高め、地域の清掃活動への参加や電気使用量の減少につなげた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「産業社会と人間」と「総合探究(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」をより系列の学びとつながりをもたせる。 感染症対策には十分留意しながら、これまで以上に積極的に地域に向かい、地域との連携を強化し、地域貢献力の充実を図る。 環境教育LHR、ゴミ減量チャレンジ、ゴミ出さないDAY、地域の清掃活動などの環境意識を高める活動を継続する。 TEAS通信や環境委員による活動をとおして、啓発活動を継続する。
4 働き方改革の推進	勤務時間管理及び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の削減は前年度比△0.8% 時間外勤務の一人あたり月平均6.6時間(前年度7.1時間) 部活動指導は、概ね計画どおりに実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務を前年度比△10%。 時間外勤務の一人あたり月平均時間△2時間。 適切な部活動指導の継続。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任業務や分掌業務などの平準化やICT活用による効率化を図り、個々の業務負担を軽減し、時間外業務を削減する。(ex 生徒面談で記録担当教員を設ける。) 部活動計画を月毎に立案し、計画に即した部活動指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月末現在、時間外勤務は前年度比△7.2%。 1月末現在、時間外勤務の一人あたり月平均前年度△0.3時間 教職員のクラウドサービス利用に関する校内ルールを策定した。 部活動計画及び実施は適正に実施している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 日野高版業務カイゼン計画を策定する。 引き続き、担任業務や分掌業務の平準化を実施する。 職員の情報共有のため、クラウド上の掲示板を完成し活用する。